



竹は燃やすと、なぜ爆発するの

竹の中にしきりがあるから

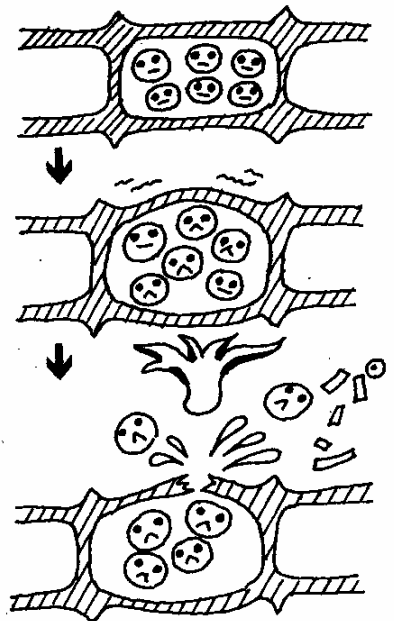
竹は、太いものも細いものも、くきに横線が入っているように見えますね。これを竹の節といいます。竹を縦に割ってみると、竹の中は、節ごとに、部屋でしきられたようになっていのがわかります。節と節の間は、完全にふたをされた、空気のかんづめのようになっています。

竹を燃やすと、火であたためられた、竹の中の空気が急激にふくらみます。でも、どこにもふくらんだ空気の逃げ道がないため、やがて、いちばん破れやすい所をおし破って空気が飛び出てきます。これが、「ぱーん」という爆発音になります。

燃やす前に、節と節の間ごとに、くぎなどで穴を開けて、空気の逃げ道を作っておけば、爆発を防ぐことができます。

竹のつつは、自然の入れ物

今のように、ガラスや、プラスチックの入れ物が、だれにでも簡単に手に入らなかった昔は、竹のつつは、便利な入れ物を作る材料になりました。節の所で切った竹づつを、水とうのかわりに、水やお酒を入れてもち歩いたり、花を生ける花びんがわりに使ったりしていたのです。（監修・矢野 亮）



竹が爆発するのは、中の空気がふくらむから

